

◎山田憲昭市長

脱炭素社会の実現に向けての決意についてお答えをいたします。

本市では、県内唯一となる白山市地球温暖化対策条例に基づき、平成23年に、計画期間を10か年とする地球温暖化対策地域推進計画を策定し、地球温暖化防止に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、温室効果ガスの削減に取り組んでまいりました。

前計画の策定以降、地球を取り巻く状況は大きく変化をしており、国連サミットによるSDGsの採択やパリ協定の発効など、国際社会が協力して気候変動、生物多様性保全、資源循環などの対策を講じているところであります。

本市におきましては、平成30年6月、持続可能な開発を実現する可能性の高い地域といたしまして、SDGs未来都市に選定され、産学官民連携による次世代のまちの実現に向け、総合的な取組も進めているところであります。

こうした背景を踏まえ、SDGsの目標年でもあります2030年度までの10年間に取り組むべき施策を定めるため、「第2期白山市地球温暖化対策地域推進計画」を策定いたしました。

本計画の策定におきましては、SDGsの考え方を取り入れており、経済・社会・環境の3側面の新しい価値の創出や統合的向上を進めることが、脱炭素社会など持続可能な地域づくりにつながると考えております。

さらに、長期的な視野にも立ちまして、本市の豊かな森林と白山手取川ジオパークの循環する水など地域資源を活用し、2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロをぜひ目指していただきたいという、市の環境審議会及び市地域温暖化対策地域協議会からの答申を受けまして、令和3年3月会議の提案理由説明におきまして、ゼロカーボンシティ宣言をさせていただいたところであります。

温室効果ガスの排出実質ゼロを目指すことが成長の制約と捉えるのではなく、産業の振興など大きな成長につながるという発想の転換を行う必要があると考えており、経済と環境の好循環でグリーン社会実現に努めてまいりたいというふうに考えております。